記　入　日　　2017 年　1 月 12 日

## 1．概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| **実践団体名** | 東京都立足立工業高等学校 | | |
| **連絡先** | 03-3899-1196 | | |
| **プランタイトル** | 災害時に工業高校生として何が出来るか？自助・共助の精神を育成する教育。 | | |
| **プランの対象者**※1 | ５．高校生 | **対象とする災害種別**※2 | ７．災害全般 |

※1　別紙「記入上の留意点」の1．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※2　別紙「記入上の留意点」の2．項目から1つ選択し、記入してください。

**【プランの目的・ここがポイント！】**

- 生徒の防災意識を高めるための学習に全教職員で取り組むことで、教職員全体の意識も高められる。
- 全ての教科から代表者を選出した委員会を発足させ、教科ごとに取り組める内容を検討し実践する。
- 通常の授業の一部分に防災に関する内容を取り入れることで、今後も継続して実践していける。
- 教科外活動においても、防災に関する資格取得を促すことで、さらに防災意識を向上させることができる。また防災訓練では実際の火災を想定した取り組みも行うことで、災害時への対応も考えさせられる。

**【プランの概要】**

- 環境、エネルギーや地域社会の課題の学習と結びつけた防災教育を行う。
- 避難所に指定されている本校において、地域の中で共助の役割を果たす。
- ものづくりの拠点である工業高校の特色を生かした取組みをし、他校でも活用できる事例や資料を全国に発信する。

上記内容をこのプランの「柱」とし、東京都立足立工業高等学校では様々な取り組みを実践した。

**【期待される効果・ここがおすすめ！】**

- 防災教育のための時間を特別に用意して取り組まないので防災教育の継続性が可能となる。
- 生徒たちに「自分はこんな事ができるんだ」と自覚させることにより、災害発生時に自助や共助をすることができる。
- 防災を切り口にして、環境、エネルギー、地域社会の課題等について考えることにより、持続可能な社会づくりに貢献する意欲を育てることができる。

## ２．プランの年間活動記録（2016 年）

| | プランの立案と調整 | 準備活動 | 実践活動 |
|---|---|---|---|
| 4 月 | ・防災教育チャレンジプラン運営委員会の立ち上げ | ・各教科や分掌及び委員会における代表が、各団体で実践できる内容を検討する。 | |
| 5 月 | 防災活動支援隊の発足 | | 宿泊防災訓練　防災活動支援隊の活動実践 |
| 6 月 | ・各団体のプランを持ち寄り委員会で発表する。 | ・プランを実施するにあたり必要な物品の検討をする。 | 社会科実践 |
| 7 月 | | 物品の準備・購入　各教科等授業準備 | 国語科実践　防災訓練　合同防災キャンプ事前研修　数学科実践 |
| 8 月 | | | 合同防災キャンプ宿泊研修 |
| 9 月 | | 各教科等文化祭発表準備 | 保健体育科実践　防災講話　合同防災キャンプ事後研修　防災士受験 |
| 10 月 | | | 英語科実践　家庭科実践　文化祭発表 |
| 11 月 | | | 理科実践（出前授業） |
| 12 月 | | | 理科実践（教科授業）　総合技術科実践　防災訓練 |
| 1 月 | | | |
| 2 月 | | | |
| 3 月 | | | 防災訓練 |

記　入　日　2016 年　12 月　20 日

## ３．実践したプランの内容と成果

**【実践プログラム番号：　１　】**※3

| | |
|---|---|
| **タイトル** | 「防災標語」を作る |
| **実施月日（曜日）** | 平成 28 年 7 月 13 日(水)14(木)15 日(金) |
| **実施場所** | 1 学年教室 |
| **担当者または講師** | 担当者・講師等の区分：<br>氏　　名：関　和則　　久我美子<br>所属・役職等：本校国語科　教諭 |
| **所要時間または「コマ数×単位時間」** | 1 クラス 50 分×５クラス |
| **プログラムのカテゴリ、形式**※4 | ５．教科学習 |
| **活動目的**※5 | 防災意識を高める |
| **達成目標** | 防災標語作成を通しての防災意識の向上 |
| **実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）** | 東京都発行の冊子「東京防災」を活用して、五七五の形式を基本に防災に関する標語を作成した。 |
| **準備、使用したもの**<br>**・人材**<br>**・道具、材料等** | 防災標語記入用紙（Ａ４）を作成用意した。 |
| **参加人数** | 175 人 |
| **経費の総額･内訳概要** | なし |
| **成果と課題** | 【成果】防災意識が向上した。<br>【課題】標語の心構えを実際の災害時に活用できるか。 |
| **成果物** | 防災標語集 |

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

記　入　日　2016 年　12 月　19 日

## ３．実践したプランの内容と成果

**【実践プログラム番号：　２　】**※3

| | |
|---|---|
| **タイトル** | 防災備蓄量の適正な配分を計算してみよう |
| **実施月日（曜日）** | 平成２８年７月１４日（木） |
| **実施場所** | １学年各教室 |
| **担当者または講師** | 担当者・講師等の区分：<br>氏　　名：古賀太紀以下数学科教諭<br>所属・役職等：本校数学科　教諭 |
| **所要時間または「コマ数×単位時間」** | １コマ（５０分） |
| **プログラムのカテゴリ、形式**※4 | ５．教科学習 |
| **活動目的**※5 | 防災に役立つ資料づくり |
| **達成目標** | 結果から読み取れるものを考察し、備蓄についての認識を深める。 |
| **実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）** | 講義・演習<br>① 飲料水の備蓄合計量を計算する。<br>② 合計量を日数と人数で除算する。<br>③ 表に記入する。<br>④ １日１人あたり２ℓ以上になる境界値を探す。<br>⑤ 表から境界値がどのような変化を示すか考察する。<br> |
| **準備、使用したもの・人材・道具、材料等** | ・講義用資料<br>・関数電卓 |
| **参加人数** | １６６人（１学年全員） |
| **経費の総額･内訳概要** | |

| | |
|---|---|
| **成果と課題** | 【成果】計算結果に興味をもって取り組めた。<br>防災を考えるきっかけになった。<br><br>【課題】備蓄している飲料水や食料の実物を示して、扱っている数量のイメージをもたせたい。 |
| **成果物** | |

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

記　入　日　　2016 年 12 月 20 日

## ３．実践したプランの内容と成果

**【実践プログラム番号：　３　】**※3

| | |
|---|---|
| **タイトル** | 災害時の外国人避難民を案内する校内英語表示を作ろう！ |
| **実施月日（曜日）** | 10 月 19 日（水）～11 月 7 日（月）（2 学期中間考査終了後の授業から連続で 2 時間～3 時間）で実施 |
| **実施場所** | 全学年の各ホームルーム教室 |
| **担当者または講師** | 担当者・講師等の区分：<br>氏　名：中山利徳、坂龍一、松下裕果、小林了輔<br>Calvin Chiwai Tong、 Jason Peter Alison<br>所属・役職等：本校英語科　教諭 |
| **所要時間または「コマ数×単位時間」** | ５０分×３時間 |
| **プログラムのカテゴリ、形式**※4 | ５．教科活動 |
| **活動目的**※5 | ２．防災に役立つ資料・材料づくり |
| **達成目標** | これまで学んできた英語の表現を用いて、各グループで、外国人を案内する英語表示を作ることで、災害時における外国人避難民のために出来ることを考えさせる。 |

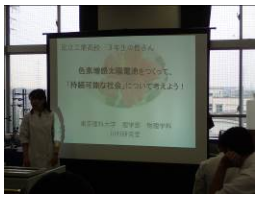
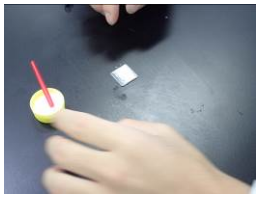
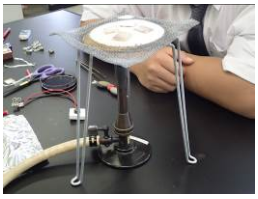
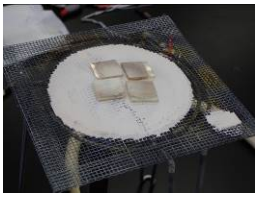
| | |
|---|---|
| **実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）** | 1 時間目：<br>１．説明<br>２．班分け：1 クラスを 5 グループにして、リーダーを決める<br>３．防災関係の表現のひな形を各グループに配布し表示案を決定させる<br>４．表示案を決定したグループから、順次作業にとりかかる<br><br>2 時間目：作成・色付け・加工・発表・提出<br>１．終了したグループからラミネート加工をする。<br>２．他のクラスと重ならないようにクラスで代表の表示を決定する。<br><br>3 時間目：予備日：<br>終了していないグループがある場合、２時間目と同様に作業を行う。早めに終了したグループがある場合は、防災関係の英語表現教材を学習させるか、次の授業の範囲を学習させる。<br><br> |
| **準備、使用したもの**<br>**・人材**<br>**・道具、材料等** | 英語科教職員６名（日本人教諭３名、講師１名、外国人講師２名）<br>POSCA（８色セット）×１５箱<br>ラミネート加工用シート（A3 サイズ）×７５枚<br>A3 サイズ再生紙　１５０枚（下書き用、清書用） |
| **参加人数** | ４４２名 |
| **経費の総額･内訳概要** | ３７，０００円（POSCA、ラミネート加工用シート） |
| **成果と課題** | 【成果】生徒達が考えた英語の校内表示を用いて、自分たちで社会貢献出来ることを体験させることが出来たこと。<br><br>【課題】表現・表示内容については、他教科との連携で更に深化させることも出来る。 |
| **成果物** | 災害時の外国人避難民を案内する校内英語表示 |

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

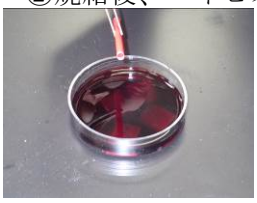
記　入　日　　2016 年 12 月 14 日

## ３．実践したプランの内容と成果

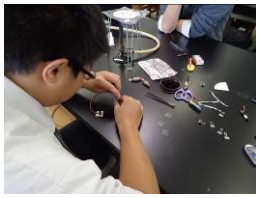
**【実践プログラム番号：　４　】**※3

| | |
|---|---|
| **タイトル** | 色素増感太陽電池を用いたエネルギー環境教育を通して、災害時に利用できる発電について考える。 |
| **実施月日（曜日）** | １１月１４日（月） |
| **実施場所** | 化学室 |
| **担当者または講師** | 担当者・講師等の区分：<br>氏　　名：川村　康文、水谷　紫苑、安藤　百合子<br>所属・役職等：東京理科大学　理学部第Ｉ部物理学科　教授<br>東京理科大学　科学教育専攻科　科学教育先攻修士学生 |
| **所要時間または「コマ数×単位時間」** | ５０分×２時間 |
| **プログラムのカテゴリ、形式**※4 | １１　出前授業 |
| **活動目的**※5 | １０　その他（災害時のエネルギー問題について考える） |
| **達成目標** | 太陽光発電について知識を深め、災害時に生かせる太陽光電池の活用方法を考える。 |
| **実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）** | １　講師紹介、事前アンケートの記入<br> <br>２　太陽電池に関する講義<br>  <br>３　色素増感太陽電池の作製実験<br>①負極の作製（二酸化チタンペーストの塗布及び焼結）<br>    |

②焼結後、ハイビスカスティーにつけ、染色する。

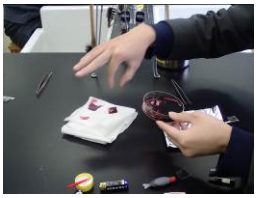


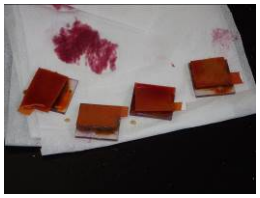
③染色中、正極の作製（黒鉛を塗布）



④電解液を保持させるための濾紙を適度な大きさに切る。

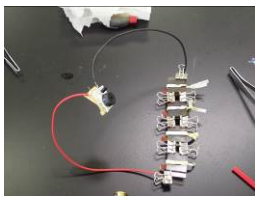
⑤負極をハイビスカスティーから取り出し、電解液を垂らす。



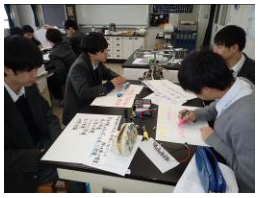


⑥負極と正極を向かい合わせ、セルを組み立てる。

⑦出来上がったセル４つを直列接続し、電子メロディーを駆動させる。



４　日本のエネルギー問題についての講義及び発表内容の説明。

| | |
|---|---|
| | 5　エネルギー問題、持続可能な社会について考え、どういった発電が今後有効か、災害時にはどんな発電が必要かを考え、画用紙に班ごとに発表内容をまとめる。<br>  <br>6　まとめ、事後アンケート、後片付け<br> |
| **準備、使用したもの**<br>**・人材**<br>**・道具、材料等** | 人材：「担当者または講師欄」参照<br>道具、材料等：<br>導電性ガラス、二酸化チタンペースト、ハイビスカスティー、ヨウ素液、濾紙、黒鉛（鉛筆）、リボンタイ、クリップ、電子メロディー、ガスバーナー、三脚、セラミック付き金網、ピンセット、シャーレ、ストロー、ペットボトルキャップ、弁当用醤油差し、電気ポット、プロジェクター、スクリーン、画用紙、マジック、はさみ |
| **参加人数** | ２４名 |
| **経費の総額･内訳概要** | 二酸化チタンペースト　７万円 |
| **成果と課題** | 【成果】<br>・太陽電池に関する知識を増やすことができた<br>・色素増感太陽電池の原理及び、特徴を理解できた<br>・色素増感太陽電池作製実験を成功させ、発電できていることを全ての班で確認することができた<br>・資源の枯渇や、災害時におけるエネルギー問題について考えを深められた<br>・持続可能な社会実現のために必要なことについて、意見を交換したり聞いたりして、考えを深められた<br><br>【課題】<br>・持続可能な社会実現のために必要なことを考えた生徒が多く、防災に関して深く考えられた生徒が少なかった<br>・事前の調べ学習や、インターネットを用いた調べ学習など、深い知見を得られる時間が十分取れなかった |
| **成果物** | ・事前・事後アンケートの比較結果より<br>・太陽光発電に関する興味が高まった<br>・エネルギー問題解決に向けて、関心が高まった<br>・再生可能エネルギーの必要性について、関心が高まった<br>・災害時に有効な発電方法について、関心が高まった |

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

記　入　日　2016 年　12 月　22 日

## ３．実践したプランの内容と成果

**【実践プログラム番号：　５　】**※3

| | |
|---|---|
| **タイトル** | 東日本大震災から学ぶ防災教育 |
| **実施月日（曜日）** | １２月１４日（水）、１２月１９日（月） |
| **実施場所** | ホームルーム教室 |
| **担当者または講師** | 担当者・講師等の区分：<br>氏　　名：兒玉　明典<br>所属・役職等：本校理科　教諭 |
| **所要時間または「コマ数×単位時間」** | ５０分×１時間 |
| **プログラムのカテゴリ、形式**※4 | ５　教科学習 |
| **活動目的**※5 | ６　防災に関する知識を深める<br>８　防災意識を高める |
| **達成目標** | 東日本大震災を教訓として、今自分たちにできることを考える。<br>足立区の液状化マップを用いて、自宅の液状化の危険度を認識する。<br>今後行うべき『自助』活動を１つでも多く考え、実行に移す。 |
| **実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）** | １　スライドを用いて、東日本大震災の概要を知る。<br> <br>２　地震のメカニズムについての説明。<br>津波被害について話す。<br> |

| | |
|---|---|
| | 3　大船渡市、陸前高田市の被害の状況、復興の様子など実際の写真を見せ、説明する。<br>『自助』『共助』『公助』の大切さ、災害時高校生に求められることなど話し、『自助』行動の大切さを認識させる。<br>必要な事項をプリントにまとめながら話をする。<br> <br>4　足立区の液状化ハザードマップを示し、自宅・学校などの場所を確認させ、適切な避難場所について考えさせる。<br> <br>5　まとめ<br>授業を通して学んだこと、感想、自分がすぐに行える自助活動について考え、プリントにまとめる<br> |
| **準備、使用したもの**<br>**・人材**<br>**・道具、材料等** | 人材：なし<br>道具、材料等：プロジェクター、スクリーン、プリント |
| **参加人数** | ３１名、３０名 |
| **経費の総額･内訳概要** | なし |
| **成果と課題** | 【成果】<br>・過去の災害に関する写真を見ることで、地震・津波の恐ろしさを再認識できた<br>・現地の人の話、避難所生活などの体験談を交えることで、現場での苦労、冷静な判断ができない現状などを知れた<br>・『自助』活動の大切さを認識し、実際に行動に移そうとする気持ちを芽生えさせられた<br>・自宅や学校などの液状化の危険度を知り、足立区が行っている対策や、支援などを知ることができた<br>・いずれ発生するだろうと予測されている、首都圏で起こる地震に対する備えを忘れずに、備蓄や家具の固定など日頃からできる自助活動についてその必要性を理解できた<br>・命の大切さを再認識し、防災訓練の大切さなどを認識することができた。 |

| | |
|---|---|
| | 【課題】<br>・地震災害の脅威、防災意識は徐々に薄れていってしまうため、その意識の継続が難しい。<br>・南海地震など、発生が予測されているが、時期が特定できないために、本当に発生するのか疑ってしまっている生徒もいた。 |
| **成果物** | 感想文などより<br>・『自助』活動を実際にやろうと考えることができた。特に日常備蓄や家具の固定など、すぐに行動できる具体的な方法を考えた生徒が非常に多かった。また、実際に行動に移そうとしている生徒が大半であった。<br>・「自分の命は自分で守る」「「共助を積極的に行う。そのためにもまずは自助を徹底する」など『生きる』ことを強く意識つけることができた。<br>・「当たり前の日常は、当たり前ではない」など、日々の大切さを再認識している生徒がおり、日頃の学校生活を向上させようと考えた生徒もいた。<br>・ |

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

記　入　日　2016 年　12 月　13 日

## ３．実践したプランの内容と成果

**【実践プログラム番号：　６　】**※3

| | |
|---|---|
| **タイトル** | 防災に関しての調べ学習及び発表会 |
| **実施月日（曜日）** | ６月２４日（金）、７月８日（金）、７月１５日（金） |
| **実施場所** | 社会科室 |
| **担当者または講師** | 担当者・講師等の区分：<br>氏　　名：赤迫さやか<br>所属・役職等：本校地歴科　教諭 |
| **所要時間または「コマ数×単位時間」** | ６時間 |
| **プログラムのカテゴリ、形式**※4 | ５．教科活動 |
| **活動目的**※5 | ６．災害に関する知識を深める |
| **達成目標** | 防災への関心を高める。 |
| **実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）** | １　グループ、テーマ決め<br> <br>２　資料収集<br>３　模造紙を用いてまとめる<br> |

| | |
|---|---|
| | ４　全体発表<br>１班　原発について　　２班　噴火災害について<br>３班　自然災害について　　４班　自然災害について<br>５班　地震について　　６班　非常食について<br>７班　津波について　　８班　地震の揺れについて<br> <br>５　事後レポート |
| **準備、使用したもの**<br>**・人材**<br>**・道具、材料等** | 模造紙、マジック、新聞など |
| **参加人数** | ２０名 |
| **経費の総額・内訳概要** | 社会科所有のもので対応 |
| **成果と課題** | 【成果】<br>・各自関心のあることを調べ、知識の向上を図れた。<br><br>【課題】<br>・資料探しに生徒たちは苦労していた。 |
| **成果物** | 模造紙を用いてまとめた作品 |

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

記　入　日　　2016　年 12 月 19 日

## ３．実践したプランの内容と成果

**【実践プログラム番号：　７　】**※3

| | |
|---|---|
| **タイトル** | テーピングの基礎知識 |
| **実施月日（曜日）** | 2 学期保健授業 |
| **実施場所** | 本校教室及び体育館 |
| **担当者または講師** | 担当者・講師等の区分：保健体育の保健担当教諭<br>氏　　名：後藤　一夫、宮澤　秀志、杉村　悟<br>所属・役職等：本校保健体育科　主幹教諭、指導教諭、主任教諭 |
| **所要時間または「コマ数×単位時間」** | ５×２ |
| **プログラムのカテゴリ、形式**※4 | 教科学習 |
| **活動目的**※5 | 災害対応能力の育成 |
| **達成目標** | 基礎的なテーピング技能を身に着け、さらなる受傷を防止する知識技能の習得。 |
| **実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）** | テーピングの知識（講義）１コマ<br>＊テーピングの目的<br>＊テーピングの効果<br>＊テーピングの種類<br>テーピングの巻き方（実技）１コマ |
| **準備、使用したもの**<br>**・人材**<br>**・道具、材料等** | 非伸縮性テープ<br>伸縮性テープ<br>テーピング用ハサミ<br>包帯 |
| **参加人数** | 175 人 |
| **経費の総額・内訳概要** | 約１００００円（テーピングテープ代、ハサミ等） |
| **成果と課題** | 【成果】<br>基本的なテーピングの巻き方を習得することができた。<br>【課題】<br>継続的に指導しなければ忘れてしまうが、テープは使い捨てのため、その都度購入する必要がある。費用面から、今後継続して購入できるかが課題である。 |
| **成果物** | 生徒のテーピング知識・技能の習得 |

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください

記　入　日　2016　年 12 月 15 日

## ３．実践したプランの内容と成果

**【実践プログラム番号：　８　】**※3

| | |
|---|---|
| **タイトル** | 常温保存のできる食材を使った調理 |
| **実施月日（曜日）** | 10 月～11 月（水）「家庭総合」の時間 |
| **実施場所** | 調理室 |
| **担当者または講師** | 担当者・講師等の区分：家庭科教諭<br>氏　　名：橋本　理恵子<br>所属・役職等：本校家庭科・主任教諭 |
| **所要時間または「コマ数×単位時間」** | ３コマ×３時間 |
| **プログラムのカテゴリ、形式**※4 | ５，教科学習 |
| **活動目的**※5 | ７，技術を身につける |
| **達成目標** | 電気炊飯器を使わずに穀物の調理ができる。 |
| **実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）** | 調理方法の説明・調理実習・まとめ |
| **準備、使用したもの**<br>**・人材**<br>**・道具、材料等** | ・3 学年クラス生徒<br>・文化なべ・雑穀（穀物）・野菜・調味料（味噌・醤油・塩） |
| **参加人数** | 12 名 |
| **経費の総額･内訳概要** | 食材費 |
| **成果と課題** | 【成果】常温可能な食材と調味料での調理技術を学ぶことで、冷蔵庫や炊飯器に頼らない食事が可能になる。<br><br>【課題】より実生活に取り入れやすい調理方法や献立の工夫。 |
| **成果物** | 雑穀を使用した和・洋・中献立の食事。 |

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

記　入　日　　2017 年 1 月 12 日

## ３．実践したプランの内容と成果

**【実践プログラム番号：　９　】**※3

| | |
|---|---|
| **タイトル** | スターリングエンジンの活用（簡易ストーブ(ロケットストーブ）をもとに） |
| **実施月日（曜日）** | 3 学期 |
| **実施場所** | 機械加工室 |
| **担当者または講師** | 担当者・講師等の区分：総合技術科教員<br>氏　　名：佐藤壮悟・岡田泰明<br>所属・役職等：教諭、実習助手 |
| **所要時間または「コマ数×単位時間」** | 今後、実施予定内容 |
| **プログラムの　カテゴリ、形式**※4 | その他 |
| **活動目的**※5 | 技術を身に付ける（目的に応じた活用能力） |
| **達成目標** | 実用品として性能が発揮できることと教材化する。 |
| **実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）** | （1）　ロケットストーブの製作<br> <br>（2）　スターリングエンジンの改良<br> <br><br>（3）　連動機構<br>（4）　発電や照明への変換装置 |

| | |
|---|---|
| **準備、使用したもの**<br>**・人材**<br>**・道具、材料等** | ペール缶（一斗缶）非常時用食品の空き缶を想定・パーライト（断熱材）・自転車用発電機・LED・リチウムバッテリー・スターリングエンジン一式等<br>教員２名 |
| **参加人数** | ２又は３学年機械系生徒対象 |
| **経費の総額･内訳概要** | ロケットストーブの材料台(5,000)と発電機等小物類 5,000 |
| **成果と課題** | 【成果】　・教材化実現<br>・限られた資材で非常時の暖房・炊飯・照明等の代用器具が製作する技術を得られる。<br>・日頃の学習が、役立つことが実感でき、意欲が高まる。<br>【課題】　・材料費の確保（予算化）<br>・授業に組み込むためのさまざまな対応整理に時間を要する。 |
| **成果物** | 非常時食品の空き缶でロケットストーブを製作<br>スターリングエンジンを組み込んで発電し卓上照明スタンド |

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

記　入　日　2016 年　12 月　22 日

## ３．実践したプランの内容と成果

**【実践プログラム番号：　１０　】**※3

| | |
|---|---|
| **タイトル** | 災害時における電力の確保について |
| **実施月日（曜日）** | 平成 28 年 12 月 14 日（水）・21 日（金） |
| **実施場所** | Ｂ棟４Ｆ　特別教室 |
| **担当者または講師** | 担当者・講師等の区分：<br>氏　　名：髙岩　千尋<br>所属・役職等：本校総合技術科　主任教諭 |
| **所要時間または「コマ数×単位時間」** | ２コマ×５０分 |
| **プログラムのカテゴリ、形式**※4 | ５．教科学習 |
| **活動目的**※5 | ９．防災対応能力の育成 |
| **達成目標** | 災害時の電力の確保について学習し、自分たちで電気の大切さや災害時の電力使用の優先度について理解する。 |
| **実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）** | ①災害時に家庭や学校の電力事情がどのようになるか学習する。<br>②発電機の種類や燃料による長所・短所について学習する。<br>③防災に対する学校の取り組みや強みを学習する。<br>④家電製品の消費電力を知り、電力使用の優先度について考える。 |
| **準備、使用したもの・人材・道具、材料等** | スライド（プレゼンテーションソフトウェアで作成）<br>プロジェクター<br>ノートパソコン |
| **参加人数** | ３３名 |
| **経費の総額･内訳概要** | 学校に現有するもののみを使用したため、新たな費用負担なし |
| **成果と課題** | 【成果】電気の重要性や災害時に対する備えが重要であることを理解できた。様々な電気に関する防災グッズについても取り上げ、各自ができる範囲で備えを行おうと意識の喚起を行えた。<br>【課題】指導に充てられた時間数が少なく、あまり多くの題材を取り上げて指導することができなかった。 |
| **成果物** | 無し |

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

記　入　日　2016 年　12 月　20 日

## ３．実践したプランの内容と成果

**【実践プログラム番号：　１１　】**※3

| | |
|---|---|
| **タイトル** | 災害時の有線・無線ネットワークについて<br>トランシーバーと無線従事者資格について<br>**デジタル簡易無線機を使用した情報の伝達・収集について** |
| **実施月日（曜日）** | 平成 28 年 12 月 9 日（金）・16 日（金） |
| **実施場所** | Ｂ棟４Ｆ　３年４組教室 |
| **担当者または講師** | 担当者・講師等の区分：<br>氏　　名：髙岩　千尋<br>所属・役職等：本校総合技術科　主任教諭 |
| **所要時間または「コマ数×単位時間」** | ３コマ×５０分 |
| **プログラムのカテゴリ、形式**※4 | ５．教科学習 |
| **活動目的**※5 | ９．災害対応能力の育成 |
| **達成目標** | 災害時の通信ネットワークについて学習し、自分たちで情報を発信・入手できるための手立てについて理解する。 |
| **実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）** | ①災害時に有線（加入電話）や無線（警察や消防など）通信がどのようになるか学習する。<br>②トランシーバーも資格や取り扱い方法など日頃の準備が重要であることを学習する。<br>③防災に対する学校の取り組みや強みを学習する。<br>④実際にトランシーバーを使用し、情報の伝達を行う練習をする。 |
| **準備、使用したもの**<br>**・人材**<br>**・道具、材料等** | スライド（プレゼンテーションソフトウェアで作成）<br>プロジェクタ<br>ノートパソコン<br>デジタル簡易無線機（10 台） |
| **参加人数** | ２６名 |
| **経費の総額･内訳概要** | 学校に現有するもののみを使用したため、新たな費用負担なし |
| **成果と課題** | 【成果】災害時の連絡手段の確保や自分たちが何をするべきか生徒が深めることができた。<br>【課題】指導時間が多くとれず、限られた内容しか取り組むことができなかった。本校は機材が従前からあったのでこのようなことができたが、トランシーバーの台数を用意するのが大変である。 |
| **成果物** | 無し |

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

記　入　日　2016 年　12 月　20 日

## ３．実践したプランの内容と成果

**【実践プログラム番号：　１２　】**※3

| | |
|---|---|
| **タイトル** | 防災活動支援隊の結成と活動 |
| **実施月日（曜日）** | １年間を通じて実施 |
| **実施場所** | 学校内外 |
| **担当者または講師** | 担当者・講師等の区分：<br>氏　　名：青木　嘉正<br>所属・役職等：本校総合技術科　主幹教諭 |
| **所要時間または「コマ数×単位時間」** | 特に無し |
| **プログラムのカテゴリ、形式**※4 | １７．その他（さまざまな防災に関する活動全般） |
| **活動目的**※5 | １０．その他（防災に関しての知識習得や体験及び資格取得） |
| **達成目標** | 防災に関しての知識向上や経験を元に自助・共助を理解する。 |
| **実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）** | １．校内に「防災委員会（生徒）」を設置し、各クラスから委員を募る。本校では１クラス２名となっている。<br>２．その委員会の構成メンバーと生徒会役員、及びボランティア生徒で「防災活動支援隊」を結成し、本校生徒たちの中の防災リーダーであるという事を理解させる。<br>３．下記の取り組みを用意した。<br>・避難訓練時の中心となり、生徒を安全に避難させる取り組み<br>・東京都教育委員会主催の「合同防災キャンプ」に参加し、東日本大震災の被災地訪問やボランティア活動、「防災士」の資格取得をする取り組み<br>・学校近隣６町会の避難所運営訓練のボランティアスタッフとしての取り組み<br>この取り組みの中で、生徒自身が出来ることを選択して実施する。<br>４．生徒たちが選択した内容を取り組む。<br>◎避難訓練時の支援隊活動<br>本校では年３回の防災訓練を実施している。訓練としては、<br>１回目・・・地震による火災発生を想定し避難をする。その際の教室からの安全な避難誘導を率先して行う。その後、消防署の方の指導のもと、訓練用消火器で消火器の使用方法を全校生徒の前で見せる。<br>２回目・・・火災を想定して実施。あらかじめ火災発生現場（教室）をスモークマシーンで煙を充満させておき、火災報知機が発報すると同時にドアを開け煙を校内中に流し、校内を煙で見えづらくする。その中で安全に避難誘導させる。<br>３回目・・・地震における火災を想定。本校６階で取り残された生徒を支援隊が演じる。避難には避難用救助袋を用いて、６階より避難させる。<br>（予定） |

| | |
|---|---|
| | ◎合同防災キャンプにおける支援隊の取り組み<br>・事前研修の受講（７月１７日）<br>防災士受験のための講義や演習を行う。<br>・宿泊研修（８月２２日～２４日）<br>東日本大震災での被災地に訪問し、災害の爪痕や現在の復興状況を見学する。そして語り部の講演会や、防災に精通した専門家の講義を聞く。また現地では復興ボランティアとして複数のボランティアを経験する。<br>参加した他校と一緒にＤＩＧや討論会も行う。<br>・事後指導（９月２２日）<br>最後の講義を聞き、「防災士」の受験をする。<br>・認定書交付式（平成２９年１月２２日）<br>東京都教育委員会が行う「防災サミット」において、認定証の交付式があり、そこで認定書が授与される。<br><br>◎学校近隣６町会における避難所運営訓練のボランティア活動<br>・事前に６町会の合同会議に教員が出向き、本校の生徒にどのようなことを活動させるか打ち合わせる。<br>・ボランティア当日（９月２５日）は「物資部」「救護衛生部」「施設管理部」に分かれ、町会長の指示のもと、地域住民の皆様と一緒に活動を行う。「救護衛生部」に所属した生徒は、その生徒が地域住民の前でＡＥＤの使い方講習を行う<br><br>５．文化祭で展示発表する。 |
| **準備、使用したもの**<br>**・人材**<br>**・道具、材料等** | 特に無し |
| **参加人数** | ４１名 |
| **経費の総額・内訳概要** | ０円（東京都からの負担があったため） |
| **成果と課題** | 【成果】<br>・生徒自ら選択した内容を取り組むため、意欲的に取り組ませる事が出来た。<br>・「防災士」を８名取得させることが出来た。<br>・地域住民の前でＡＥＤの使い方講座を実施したため、実施した生徒が「自信がついた」と話していた。<br>【課題】<br>・支援隊は大勢いるが、一部の生徒が実践しなかった。その生徒に対してどのように防災に関しての意欲や関心を高めさせるかが課題である。 |
| **成果物** | 「防災士」の資格<br>さまざまな活動における記録写真<br>地域との絆の強化 |

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

記　入　日　　2016 年 12 月 20 日

## ３．実践したプランの内容と成果

**【実践プログラム番号：　１３　】**※3

| | |
|---|---|
| **タイトル** | 宿泊防災訓練 |
| **実施月日（曜日）** | 平成２８年５月１３日（金）～１４日（土） |
| **実施場所** | 本校体育館・ピロティ |
| **担当者または講師** | 担当者・講師等の区分：<br>氏　　名：青木　嘉正<br>所属・役職等：本校総合技術科　主幹教諭 |
| **所要時間または「コマ数×単位時間」** | １日半（１．５日） |
| **プログラムのカテゴリ、形式**※4 | １７．その他（さまざまな防災に関する活動全般） |
| **活動目的**※5 | １０．その他（防災に関しての知識習得や体験及び資格取得） |
| **達成目標** | 受講者全員の上級救命講習取得・防災意識の向上 |
| **実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）** | ＜事前の準備＞<br>１．防災教育推進委員会（教員）を立ち上げる。<br>※分掌や学年から代表者を選出する。<br>２．消防署と連携のため、日程調整をする。<br>※所轄内の他の学校や団体の防災訓練と同一日にならないように調整の必要があった。<br>３．校内の日程調整をする。<br>※１日がかりの日程になるため、授業時数も考慮する必要があるため。<br>４．委員の先生方と担任団で内容を検討する。<br>※今年度については、東京都教育委員会で上級救命講習取得のための費用を負担していただける事業を利用した。また事前に消防署より「初期消火訓練を実施したい」との要請があり、校内で検討する内容はほとんど無かった。<br>５．足立区の災害対策課へ連絡し、連携の協力を依頼する。<br>※炊き出し時に使用する「災害用灯油レンジ」の借用契約を結んだ。<br>６．消防署担当官と内容の調整し決定する。<br>※配分時間などを校内で作製したものを確認していただき了解を得る。<br>７．講演会の派遣のお願いをする。<br>※今年度は足立区役所災害対策課の推薦で、同部署の方にお願いした。<br>８．保護者への趣旨説明（通知文を利用）をする。<br>９．生徒への説明会を開く<br>１０．保護者の同意書を取る。<br>１１．必要物品の買い出しをする。<br>※プラスチックコップやみそ汁椀などの使い捨て出来るものを購入した。 |

１２．教職員の現場配置を検討する。
※本校では、原則全教員参加となっており、生徒指導班や応急救護班、警備班、清掃美化班、受付班に分ける。基本的に分掌ごとにメンバーを構成し、仕事内容はその班ごとに検討してもらう。
１３．生徒の係分担を検討させる。
※班長、副班長、保健担当、給食配膳担当、美化担当、就寝準備担当、学習担当、防災体験活動担当を選定させる。
１４．しおりの作製をする。
※しおりには、行程表や各担当の役割説明、諸注意などを記載した８ページ程度のものを作製した。
１５．ＰＴＡに炊き出しのお手伝いのお願いをする。
※給食配膳担当の生徒だけでは夕食に出す炊き出しが間に合わないため、ＰＴＡにお手伝いをお願いしている。
１６．生徒の在籍番号を入力したラベルテープを作製する。
※当日生徒に使用させるプラスチックコップに貼るため。在籍番号にするのはそのまま捨てても個人情報が洩れる心配性が薄れるため。
＜当日＞
１７．消防署や消防団のご協力による「上級救命講習」の実施。
※朝９時から１７時まで実施した。また、その後初期消火訓練も実施した。実際にポンプ車を利用し、本校のプールから水をくみ上げ放水訓練を実施した。放水体験は、防災体験活動担当の生徒を中心に行い、その他立候補者も体験させる。

１８．炊き出し食品の配給訓練の実施
※本校の備蓄倉庫にある災害用のアルファ化米と保存用の水を使用した。お湯を沸かす際にはカセットコンロを利用し沸かした。生徒の飲み水も保存用の水を配給した。みそ汁については足立区から借りた「災害用灯油レンジ」を利用して作った。
１９．防災関係の講演会の実施
２０．振り返りシートの記入
※１日の中で行った項目に関しての感想や取り組み具合などを記入させる。
２１．就寝準備
※就寝準備担当生徒中心で布団を準備させる。男子生徒は体育館で就寝。女子生徒（本校では１名）は生徒相談室で就寝。
２２．就寝
２３．起床
※起床後に体操を実施。その際、使用していた布団はまとめて置いておく。
２４．就寝具の片付けと清掃
※就寝準備担当生徒中心で片付けと清掃担当生徒中心で使用した場所の清掃をさせる。
２５．振り返りシートの記入
※宿泊防災訓練全般の感想を記入させる。
２６．宿泊防災訓練の終了

| | |
|---|---|
| **準備、使用したもの**<br>**・人材**<br>**・道具、材料等** | ＜人材＞<br>本校職員・消防庁西新井消防署の職員・足立区災害対策課<br>・本校ＰＴＡ<br>＜道具・材料等＞<br>備蓄用食料・それに必要な食器類（プラスチックコップなど）<br>災害用灯油レンジ・就寝用寝具 |
| **参加人数** | １６４名（１学年全員） |
| **経費の総額･内訳概要** | 約３００００円　（但し、無料借用品もあり） |
| **成果と課題** | 【成果】<br>・全員が上級救命講習を修了した。<br>・Ｄ級可搬ポンプの使用方法を学習したため、地域に配置しているポンプが使用でき地域貢献ができる共助の精神が養われた。<br>【課題】<br>・今後の継続方法（上級救命講習や消火訓練の技能） |
| **成果物** | 上級救命講習 |

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

## ４．苦労した点・工夫した点

| | |
|---|---|
| **プランの立案と調整で苦労した点工夫した点** | 注：（　）内の番号はプログラム番号を示す。<br>＜苦労した点＞<br><br>数学科：・プランを立案する上で、食料か飲料水か、または両方に着目するかを考えるのに苦心した。（２）<br><br>英語科：・本校の生徒たちが英語を使用して貢献できるのかの検討（３）<br><br>理　科：・実験結果から得られる知見を、どう結論づけられるかの調整（４）<br>・防災とエネルギー問題の結びつけ方の調整（５）<br><br>社会科：・作業４時間、発表・事後レポート２時間で指導計画をたてたこと。（６）<br><br>総合技術科：・通常の指導計画がある中にこの取り組みを取り入れたので，指導時間の確保が一番苦労した。（１０）<br>・アマチュア無線の無線局開設や災害時に備えたアンテナおよびタワーの設置を考えていたが、校内の調整に時間がかかってしまい開設に時間がかかってしまったり、うまくできないことがあった。（１１）<br><br>防災活動支援隊：・防災活動を用意するにあたり、どのようなものがあるのかの調査が大変だった。（１２）<br><br>宿泊防災訓練　：・全体計画を立てるための他団体との企画調整が大変だった。（１３）<br><br>＜工夫した点＞<br>国語科：・災害に対する危機感を持たせるために、東京都発行の冊子「東京防災」を事前学習の教材として活用した。（１）<br><br>数学科：・シンプルに考えるために、飲料水の量に重点を置いた。水は生存するために最も不可欠なものである。（２）<br><br>英語科：・生徒が普段の授業で習ったものを生かす内容で実施する。（３）<br><br>理　科：・最先端の科学技術に触れる機会を設けた（４）<br>・防災に縛られず持続可能な社会について考えるきっかけを設けた（４）<br>・災害の実態を伝え、地震災害の恐ろしさを伝えられるようにした。（５）<br>・インターネットや新聞などの情報ではなく、現地の人が撮った写真・体験談、実際に震災後に行って撮った写真などを活用し、主観的な話をすることで、現実味を増すようにした。（５）<br>・話を聞いて、「かわいそう」や「大変だ」という感想を持ってもらいたいのではなく、「自分が被災したら？」「今できる自助活動とは？」という視点で話を聞くように念を押すことで、他人事で |

| | |
|---|---|
| | はないことを認識させた。（５）<br><br>家庭科：・冷蔵庫や電気調理器具に頼りがちな昨今、日本で受け継がれてきた保存食を紹介し、より身近な食材として、簡単な調理方法で紹介した。（８）<br>・さらに食事を楽しむために、日本の伝統食材である、塩・味噌・醤油の調味料を中心に、米、雑穀、旬の野菜、乾物等を使用しながら、和食だけでなく、洋食・中華などの献立も、導入した。（８）<br><br>防災活動支援隊：・生徒たちが自ら向上心が出るような内容を準備すること。（１２）<br><br>宿泊防災訓練　：・資格取得に絡め、体験型学習を多くすることにより飽きの来ない訓練を実施した。（１３） |
| **準備活動で苦労した点工夫した点** | 注：（　）内の番号はプログラム番号を示す。<br>＜苦労した点＞<br>国語科：・標語記入用紙を作成するうえで、記入しやすいように工夫した。（１）<br><br>数学科：・実際に備蓄量を確認することに苦労した。（２）<br><br>英語科：・標識を作製させる際、英語が得意である場合とそうでない場合に左右されにくい形はどのようなものがあるか。（３）<br><br>理　科：・外部機関との企画案調整（４）<br><br>家庭科：・風土食についての事前の詳細な説明。（８）<br>・調理器具を身近ななべやフライパンに厳選。（８）<br>総合技術科：・スライドを多く用いて、生徒がイメージしやすいように授業をすすめたが、スライドの準備に多くの時間がかかってしまった。（１０）<br>・本校に現有する機材・資産でどんな授業ができるのか。また、実施する日にほかのクラスの授業と使用が重ならないかなど事前準備に配慮した。（１１）<br>・スライドを多く用いて、生徒がイメージしやすいように授業をすすめたが、スライドの準備に多くの時間がかかってしまった。（１１）<br>＜工夫した点＞<br><br>数学科：・実際に備蓄量を確認することに苦労した。（２）<br>・経営企画室と連携して備蓄量を確認することができた。（２）<br>・生徒も参加して、備蓄量の確認をすれば実感を持たすことができる。（２）<br><br>英語科：・予算的にも、あまり負担にならない方法（３） |

| | |
|---|---|
| | 理　科：・外部機関との企画案調整（４）<br>・全員が 100%今回の主旨を理解することは望まず、一人でも多くの生徒に考えるきっかけを与えようと主題を置いた点。（５）<br><br>家庭科：・風土食についての事前の詳細な説明。（８）<br>・調理器具を身近ななべやフライパンに厳選。（８）<br>・調理方法も最低限の工程で、シンプルな調理の追求。（８）<br><br>総合<br>技術科：・日頃からアマチュア無線による通信や電波に関する授業を行っているので、担当教員の経験が生かせる指導内用を考えた。（１１） |
| **実践に当たって苦労した点工夫した点** | 注：（　）内の番号はプログラム番号を示す。<br>＜苦労した点＞<br><br>数学科：・飲料水の備蓄量や、１日１人あたりに配分する量を板書で表にすることに苦労した。（２）<br><br>英語科：・出来上がった作品の英語表現とイラストに差が出てしまった。<br>・優秀なものを選定する場合、メッセージ性を考慮するか、作品として美的なものを優先するか、判断が難しかった。（３）<br><br>社会科：・生徒のモチベーションの維持（６）<br>・資料探し（６）<br><br>家庭科：・調理実習をスムーズに進めるための、事前の食材の準備・計量、調理器具の準備。（８）<br><br>総合<br>技術科：・生徒の人数が多いため、実習を取り入れて指導することができなかった。（１０）<br>・資料を多く用いるため、生徒が与えた情報を上手に理解できるようにするのが苦労した。（１０）<br>・少人数であれば、発電機を実際に動かして電気を使用するまでの指導を行えると思った。（１０）<br><br>＜工夫した点＞<br>国語科：・防災意識があまりない生徒に対して、他人事ではないということを意識させるように工夫した。（１）<br><br>数学科：・板書している間も生徒を個別に指導することができるように、ティームティーチングの体制をとり複数で指導した。（２）<br><br>理　科：・発表に慣れていない生徒ばかりのため、班で４枚の画用紙を与え、１～４枚目までの流れを固定することで、発表しやすく工夫した。（４）<br><br>社会科：・複数の視点で書くように指導を行ったこと。（６）<br>・発表のとき、各自の感想を書かせるようにし、一番良かったグループを選ばせたこと。（６）<br><br>家庭科：・作業から作業への声かけの工夫。（８） |

## ５．他の団体、地域との連携

| 協力・連携先の分類 | 団体名、組織名 | 協力・連携の内容 |
|---|---|---|
| 学校・教育関係・同窓会組織 | 東京都教育委員会 | 合同防災キャンプ<br>防災活動支援隊 |
| 保護者・ＰＴＡの組織 | ＰＴＡ | 宿泊防災訓練 |
| 地域組織 | 学校近隣６町会 | ６町会避難所運営訓練<br>（防災活動支援隊） |
| 国・地方公共団体・公共施設 | 東京消防庁西新井警察署<br><br>足立区役所災害対策課 | 宿泊防災訓練<br>避難訓練<br><br>宿泊防災訓練<br>６町会避難所運営訓練<br>（防災活動支援隊） |
| 企業・産業関連の組合等 | | |
| ボランティア団体・ＮＰＯ法人・ＮＧＯ等 | | |
| 職業、職能団体・学術組織、学会等 | 東京理科大学 | 出前授業（理科） |

## ６．成果と課題（実践したプラン全般について）

| | |
|---|---|
| **成果として得たこと** | ・通常の授業で実施することを基本に、全ての教科で実施した。教科においては現時点で行っている内容に即した範囲で防災教育を取り入れたため、比較的に生徒も防災教育に取組みやすい環境を作ることが出来た。そのため、生徒一人ひとりが「災害」や「防災」について考える機会となった。また、今の自分に何ができるのかを考え、実践することを通して、災害に対しての危機感を持たせることが出来た。<br>・本校生徒会役員や防災委員会の生徒を中心に防災活動等を行う「防災活動支援隊」の取り組みとして「防災士」や「普通救命講習」などの資格取得を盛り込んだ結果、自ら志願して取り組む生徒が増えた。その中で、東京都教育委員会が企画した「合同防災キャンプ」に８名の生徒が参加し、東日本大震災での被災地訪問や被災地ボランティアを経験させることが出来た。これは貴重な経験になったと考えている。また「防災士」の資格も取得させられたので、本校を卒業しても、地域貢献ができる（共助の精神）大人として社会に出せると思う。さらには、学校近隣の避難所運営訓練に参加させることにより、防災に関しての深い知識を得ることができ、また、ボランティア精神や共助の精神も養うきっかけを作れた。<br>・このプランのために各教科や分掌・委員会から代表者を選出し、「防災教育チャレンジプラン運営委員会」を立ち上げた。各教科において「防災教育」を柱に教科ごとにどのようなことが授業で実施できるかを検討して、各教科担当者が教材研究をし、防災に関する授業を実施することで、教職員全体の防災に関しての意識向上があっとように思う。なかなか防災に関して考える機会が少ないなかで、教職員にとっても良い経験だったと考えている。 |
| **全体の反省・感想・課題** | ・全校体制で実施することを目標に各教科からプランを出し合って実施したが、１年間の活動を終えてみると、このプランに関わっていないクラスがあった。このようなクラスが出ないようにする為には、運営委員会で実施クラスの割り振りまで検討しておく必要があったと考えている。また、授業の中で防災教育を取り入れるため、広く浅くの内容しか扱えなかったことが課題である。しかしながら、学校長を含むいろいろな先生が始業式や終業式、全校集会などで防災に関しての講話やお知らせをしていたので、防災に関して全く考えなかった生徒はいないと思う。<br>来年度以降、各教科でより充実した内容となるよう、更なる工夫を重ねる必要がある。<br>・全教職員や全生徒の防災意識が高まったかというと疑問がある。しかしながら、いざ災害が起こった時に「学校でこんな事やったな」という事が頭の片隅にでも残っていれば活用できるのではないかと考えている。 |
| **今後の継続予定** | ・来年度の学校の重点目標にも掲げており、防災教育を継続して行っていくことで、より生徒が防災に関しての興味関心を持つのではないかと考えている。今年度の各教科における反省や、学校全体としての防災教育実施の仕方を振り返り改善点をして、来年度以降も継続していきたいと考えている。 |

## ７．自由記述欄　※6

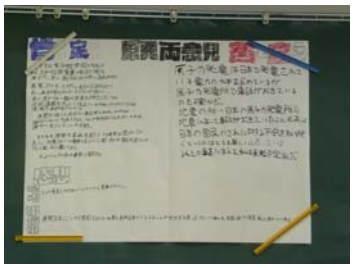
※6　自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守でお願いします。

＜国語科の活動＞

＜数学科の活動＞

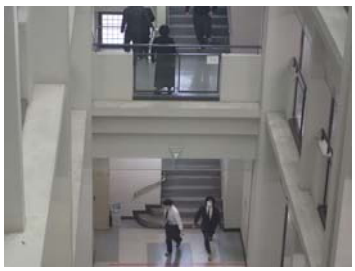
＜英語科の活動＞

＜社会科の活動＞



（自由記述：　1／3）

＜防災活動支援隊の活動（避難訓練）＞



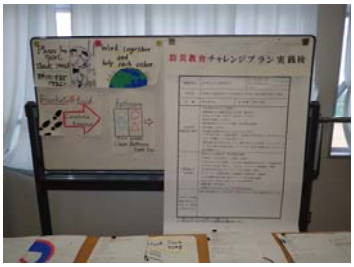
＜防災活動支援隊の活動（合同防災キャンプ）＞

＜防災活動支援隊の活動（近隣６町会避難所運営訓練）＞

＜宿泊防災訓練＞

（自由記述：２／３）

＜文化祭での発表＞



（自由記述：３／３）